

令和4年度（令和5年度実施）事務事業評価表

事業整理番号 1001 政10

事務事業名	池袋副都心移動システム推進事業	担当組織	都市整備部	都市計画課
-------	-----------------	------	-------	-------

事業特性												
事業を構成する予算事業	事業開始年度	30年度以前	事業終了年度		計画／一般	計画	計画事業No.	6	3	1	6	
	単独／補助	区単独事業	運営形態	一部業務委託	関連するSDGsのゴール			3	7	8	9	11
事業を構成する予算事業	① 池袋副都心移動システム推進事業				②							

政策体系（令和4年度基本計画）			
地域づくりの方向	人間優先の基盤が整備された安全・安心のまち	政策	魅力を支える交通環境づくり
施策	総合交通戦略の推進	政策番号	6-3-1
関連する個別計画	副都心交通戦略	計画策定年度	平成23年度
		計画期間	令和17年度

1. 事業の概要・指標の達成状況

(1)実施の対象（具体的に記載）	インバウンド、来街者、区民、商店会、地元民間団体、企業
(2)事業の目的・期待する効果	本システムは単なる移動手段ではなく、豊島区の魅力を上げる装置として整備する。池袋駅周辺においては、4つの公園を基本とした回遊ルートを実行し、他の地域においても本車両を活用したまちづくりを積極的に展開し、豊島区全体の価値を高めることを目的とする。
(3)事業概要	池袋副都心におけるLRT整備構想を見据えた移動システムとして、地理に不慣れな来街者や高齢者等の交通弱者にやさしく、環境に配慮した低速電気バスを導入し有償運行を行う。本事業はプロポーザルで公募したまちづくり団体・運営事業者と連携し進める。

4 （4） 目標の達成状況	4年度 取組内容 4年度に 実施した 具体的な 業務内容	<ul style="list-style-type: none"> 乗合運行、貸切運行の実施 期間限定運賃の延長（～令和5年9月30日の1年間） IKEBUS車両の大規模改修・評価委員会の実施 区イベントでの活用・情報誌IKENAVIの発行（4回）・IKEBUS運行3周年イベント実施 サポーター企業・民間企業との協働プロジェクトの実施 						
	成果指標 事業目標 の達成度	成果指標	目指す方向性	単位	3年度（実績）	4年度（計画）	4年度（実績）（達成率）	5年度（計画値）
	① 池袋駅周辺で、新宿、渋谷などない魅力あるまちづくりが進んでいると思う割合	↗	%	46.5	47.0	47.0	100.0%	48.0
	② 年間の乗合バス乗車人数	↗	千人	88	138	99	71.7%	138
	③ 年間の貸切運行数	↗	便	149	200	167	83.5%	200
指標の説明	①協働のまちづくりに関する区民意識調査 ②乗合バス利用者の延べ人数 ③貸切バスの運行便数							
未達成の状況	一部未達成	未達成または一部未達成の理由	新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う運休・減便運行の影響やインバウンド等の来街者減少による。					

5 （5） 取組実績	活動指標 事業の 実施状況	活動指標	目指す方向性	単位	3年度（実績）	4年度（計画）	4年度（実績）（達成率）	5年度（計画値）
	① PR活動（試乗会等）の開催	↗	回	11	15	10	66.7%	15
	② 1日当りの乗合バス運行便数	→	便	51	62	33	53.2%	51
	③							
	指標の説明	①単独イベント・企業等のイベントでIKEBUS展示やPR活動を行った回数 ②年度間の乗合バスの1日当りの乗合バス運行便数の平均値						
未達成の状況	未達成	未達成または一部未達成の理由	新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴うイベント自粛や運休・減便運行の影響による。					

2. 事業費の推移

単位 （金額の項目：千円 人数の項目：人）	3年度		4年度			5年度		
	予算	決算	予算	決算	執行率	予算	増減（R4決算比）	
事業費	A	142,837	132,444	160,837	155,846	96.9%	170,986	15,140
人件費	【正規（人数）】	—	(1.70)	—	(1.70)		(1.70)	—
	【会計年度任用職員等（人数）】	—		—				—
	人件費 B	B	—	14,450	—	14,450		14,450
事業費（人件費含む）	C=A+B	—	146,894	—	170,296		185,436	15,140
財源内訳	国、都支出金							0
	使用料・手数料	D						0
	地方債・その他							0
一般財源	E=C-D	—	146,894	—	170,296		185,436	15,140

3. 総合評価及びR5年度以降に向けての対応・改善策

(1)令和4年度 成果と課題	【指標の達成状況(a)】 →S、A、B、C、Dの5段階で評価	B	根拠	年間の乗合バス乗車人数及び年間の貸切運行数については計画を下回ったため					
	※上記の達成状況を踏まえ、評価及びその根拠を記載してください。 ※以下の欄には、①目標に対する成果結果の課題、②指標以外の数値では測れない効果について記載してください。								
①目標に対する成果状況を踏まえた課題 グリーンスローモビリティとしての利用実績は高く、広告換算費なども一定の成果が見られるが、事業収支について改善が必要と評価委員会でも指摘いただいている。まちの変化、利用実態や利用者意見の分析等により、幅広いニーズに沿った事業運営によりまちの魅力向上に寄与していく必要がある。									
②指標に表れない事業の成果(指標以外の成果) ・※R5.3末までの広告換算費:約6.7億円 多くのメディアに取り上げられ、まちづくりとIKEBUSの相乗効果により池袋の注目度が上がった。									
(2)業務(事務)改善 に向けての取組み	【業務(事務)改善に向けての取組み(b)】 S、A、B、Cの4段階で評価 →	B	根拠	効率的なダイヤ及びルートの検討、安定的な運行を担保する車両改修を行い、さらなる利用促進のため企業や団体と連携したPR活動が必要。					
	※下の確認事項の内容を踏まえ、齟齬がないよう評価及び根拠欄を記載してください。 ※昨年度に何らかの対応、改善を行い、事業を大きく前進させる成果があった場合のみ「S」評価としてください。								
①目標に対する成果状況を踏まえた課題(再掲) グリーンスローモビリティとしての利用実績は高く、広告換算費なども一定の成果が見られるが、事業収支について改善が必要と評価委員会でも指摘いただいている。まちの変化、利用実態や利用者意見の分析等により、幅広いニーズに沿った事業運営によりまちの魅力向上に寄与していく必要がある。									
②現状の実施状況における所管課の認識									
事業の中に環境変化に合わなくなったものはあるか。		無	選択の理由	インパウンド等の来街者も増加し需要が高まっている					
直営や委託等の様々な手法を比較検討しているか。		無	選択の理由	すでに事業者と協定を結び事業を実施している。					
サービスに係るコストは適正か		適正	選択の理由	R4年度の評価委員会では広告換算費を含めた費用対効果について一定の評価を頂いているが、今後更なる増収策を実施する必要がある。					
統合した方が効率的にできる可能性のある事業はあるか。		無	(有の場合)事業名						
③上記①、②を踏まえた所管課の対応実施状況									
対応、改善を既に行った	はい	はい	取組内容及び効果	車両の安全性向上のための大規模改修	予算措置	R4拡充			
対応・改善予定(上記ではい場合は更なる)	有	無	対応、改善の予定がない理由						
選択肢に関わらず	有	有	対応、改善の内容	運行ルート、運賃の検討。誘導員経費の削減。サポート企業との連携強化。	予定時期	R5.10			
	有	有	予算措置	無	有	予算措置を伴わない実施との比較検討	予算措置を伴う理由		
(3)必要性/ 優先度	【区が実施する必要性(c)】 S、A、B、Cの4段階で評価 →	B	根拠	誰もがまちを回遊できる移動装置として、また、地域団体、民間企業が協働で区の魅力を引き上げる事業は他に類の無い事業である。					
	※下の確認事項を踏まえ、齟齬がないよう評価及び根拠欄を記載してください。 ※「区の他の事業より注力すべき事業」または「区民ニーズが大幅に増加している」の場合のみ「S」評価としてください。								
①区が実施する理由(複数選択可)									
<input type="radio"/>	区以外の事業より注力すべき事業である。 ※部の主要課題のうち、特に優先すべき事業の場合チェック			法律の要請を受けて行う事業である。					
<input type="radio"/>	民間事業者等に同様のサービスがない。		その他(理由)						
②区民ニーズ									
区民ニーズを表す指標	有	有	指標番号(活動)	①	指標番号(成果)	①	②	サービス利用者数	50名以上
	「有」「無」ともに記入		推移	↘	推移	↗	↗		
区民ニーズに対する認識	R2年度から実施しているアンケート調査では、IKEBUSをお勧めしたい割合は64%、お客様の満足度も78%と高く、池袋の回遊性を高める移動システムと言える。								

総合評価(d=a+b+c)	ランク3
---------------	------

4. R5年6月末時点の状況

①令和5年度当初の課題・ニーズ	車両の改善改修による減便の影響により乗客数は減少しているものの時間帯によっては臨時便を出す状況もあり、利用ニーズが高まっているといえる。このため、早期に車両の安全性を確保し、便数を増やし利便性を向上させる必要がある。 乗合事業収入の他、サポーター企業等の民間企業との連携企画や広告収入、貸切事業の拡大等による収入増の検討も必要である。
②国・都の動き（関係法令の改正・補助金の創設・方針の変更など）	無し
③令和5年度の方向性・取組方針(事業展開)	車両の安全性を確保し増便を図る。 運営事業者及びまちづくり団体の協定更新。 評価委員会の開催。 現在実施中の期間限定運賃の改定検討。 貸切事業の拡大。
④令和5年度の事業進捗状況(6月末時点)	車両改修の継続。 評価委員会に向けたアンケート調査の実施準備。 新ルートの検討。
⑤区民等からの事業に対する意見・要望	増便や他地区での運行要望が多い。
⑥上記⑤に対する対応	ダイヤについては検討中であるが、他地区での乗合運行については現状では難しい旨回答している。

今後の事業費予算要望(e)	現状維持	根拠	事業費積算による
---------------	------	----	----------

今後の事業の方向性(d+e) (現状の評価および施策評価を踏まえた評価)	B:改善・見直し
---	----------

《上記判断を踏まえた所管課の認識・R5年度以降に向けての対応》

事業評価委員会の指摘も踏まえ、事業収支の改善を図るとともに、サポーター企業との連携を強化するなどにより、まちの魅力の向上を図っていく必要がある。